

○「ドローンを活用した農地パトロール」

(奈良県宇陀市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

特徴 奈良県の北東部に位置し、三重県名張市に接している。面積は247.50km²で、奈良県全体の6.7%を占めている。農地面積は2,572haで、山林が市全体の73.8%を占める中山間地域であり、水稻や、施設による軟弱野菜、露地での黒大豆、ダリアなどが多く栽培されている。また、みどりの食料システム戦略に取り組み、有機農業を始めとした環境と調和のとれた農業を推進している。

課題 農地筆数が約6万筆と多く、中山間地域のため急傾斜地が多く存在し、毎年の農地パトロールでは現地確認困難な農地も非常に多い。

2 課題解決に向けた活動



昨年より、本市農林課で撮影用ドローンを1基導入しており、ドローンの資格を取得した職員が課内で増えた。農業委員会事務局では、農林課職員の協力のもと、現地確認困難な農地を事前に航空写真からピックアップし、農地パトロール開始までに撮影にまわっている。また、農地台帳についても農業委員会サポートシステムへの一本化を目指し、昨年度、農地台帳データの移行を完了させ、今年度より本格的にタブレットを使用した農地パトロールができる体制を整えた。

3 活動(取組と工夫)の結果

ドローンでの事前撮影を行うことにより、農業委員、推進委員の現場確認の負担軽減につながっている。また、これまで現地確認困難な場所の農地の現況も確認することができ、より精度の高い調査につながっている。